

おお大勝利

平成 20 年度山東サッカー一部報第 21 号 (1 月 6 日)

サッカー一部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー一部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

新年を迎え 更なる飛躍を

皆様、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

昨年の新年号で平成 20 年を迎え時の過ぎ行く早さを述べましたが、その新年号から、
またもや早くも 1 年が過ぎました。昨年の新年号から引用してみましょう。

「今後も、時の歩みは同様に、早く過ぎ行くと思われまふ。現 2 年生にとって勝負の時までの時間も。そして引退の時も少しずつ少しずつ、近づいてきております。」

現在の私も、まったく同じ気持ちでいます。県総体開幕の 5 月まで、まだまだあるように見えてあとわずかです。冬の厳しい環境での練習をくぐり抜けると、あっという間です。先日入部したと思ったら・・・2 年生諸君にはもう引退の時期が迫っているのです。後悔のない日々を過ごしてほしいと思います。1 年生諸君もぼやぼやしている暇はありません。来年も有望な選手が入ってくるでしょうが、先輩の意地を見せるための力を蓄える時間は、刻一刻と少なくなっています。現 3 年生を見習い、冬場のトレーニングで力を養ってもらいたいと思います。

さて、昨年は東北大会に出場し、校内では松田杯を受賞するなど、めでたいことがありました。しかし、しかしです。**昨年も目標は達成していないことをわれわれは肝に銘じなければなりません。**昨年までのあり方ですら、**多くのことが足りない**のです。自戒もこめていますが、目標も達成せずに浮かれてはいけません。**われわれには目標へのハングリーさが必要である**ことを、この新年号で再確認したいと思います。

2009 年は山東サッカー一部にとり、どんな年になるでしょうか？不安ですが楽しみでもあります。保護者の皆様、OBの皆様、昨年と変わらぬご支援をよろしくお願ひします。

OB会主催の納会 盛大に実施

昨年 12 月 19 日、市内なかじま肉屋にて、サッカー一部恒例の納会が開催されました。この会は、OBの方々が 3 年生のこれまでの健闘を称え、進学に向けた激励をし、また 1・2 年生に今後の活躍を誓わせる、山東サッカー一部の非常にすばらしい伝統行事です。すき焼き代のほとんどを OB 会でもってくださる太っ腹な伝統行事であり、最低でも 20 年は

続いているのではないのでしょうか。選手にとってはOBの皆様への現役生にかけける熱い思いを感じることでできる重要な機会であり、今年もにぎやかに執り行われました。

今年度優秀選手として表彰されたのは、**平遼、柏倉圭介、峯田優一、皆本岳、黒田薫の5名**（順序に深い意味はありません）。優秀選手賞として「山東帽章付きスペシャルトロフィー」が贈られました。以下はその推薦文です。

平 遼	無尽蔵のスタミナと一瞬のスピードを併せ持った、敵にまわしたくないFW。1年生のときにプレーの判断が良くなり、2年生のときにボール・コントロール、コンタクトスキルが向上し、3年生になり、ドリブルまあよし、シュートよし、パスまあまあの素晴らしい選手に成長した。3年間止まることなく成長したことは本当に驚きであるし、賞賛に値する。
柏倉 圭介	長身と鍛え抜かれた筋肉で敵の攻撃を寸断する恐るべきDFであった。1対1における読みもよく、練習でもほとんど対人で負けることがなかった。また攻撃センスにも長け、ここで一点欲しいという場合には、FWとして活躍した。県内の高校の指導者から絶賛されており、高3のときに県選抜を組んだら間違いなく選ばれていたであろう。
峯田 優一	決して派手なプレースタイルではないが、両足のキック、ヘディング、コンタクトスキル、いずれも他の手本であり、ガッツあふれるプレーで幾度もチームを救った。また、競技に取り組むストイックな姿勢と人一倍声を出す明るさがチームに与えた影響は大きく、東北大会出場にまでいたる苦しい練習を引っ張った最大の立役者といって過言ではない。
皆本 岳	ピッチに立ち公式戦で活躍することはできなかったが、練習に取り組む真摯な姿勢とリーダーシップはチームになくてはならないものであった。ピッチ上では主にBチームのまとめ役として活躍したが、堅実で力強いディフェンスと迫力あるコーチングにも定評があった。後輩たちは、19年度に加藤真、20年度の皆本岳がしたような、チームへの貢献の仕方を学んで欲しい。
黒田 薫	主将として個性豊かなメンバーをしっかりとまとめ上げた。責任感が強く、主将になってからは自分がそれまで嫌っていたトレーニングに人一倍真剣に取り組むことで、選手をリードした。またFWという慣れないポジションにもFOR THE TEAMの精神で挑戦し、前線でタメを作るチームに欠かせないFWに成長した。東海戦でのヘディングの高さ、宮城県工業戦の左足シュートのすさまじさは、長く記憶に残るだろう。

3年生を含めた選手諸君は今後それぞれの道を歩むわけですが、それは同時に、山東サッカー部のOBになることを意味します。先輩方のような、現役生を温かく支援してくださるOBにぜひなって欲しいものだと思います（**その前に、まずは進路実現に向け手を抜くな、サッカー部の苦しい練習を乗り切った諸君ならやり抜けるはずだ**）。